

令和 6 年 7 月 12 日  
自己点検・評価委員会

はじめに 教育改革の推進と継続的な自己点検・評価の実施

聖徳大学短期大学部は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命を実現するため、教育の内部質保証への取り組みに努めております。平成 30（2018）年度より教育研究活動等の状況について、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく評価基準を自ら設定し、継続的に点検及び評価を行い、「教育の質」及び「学生の学びの質」の向上に努めて 6 年が経過いたしました。その結果、本学の教育研究の水準は毎年着実に向上してきており、教育改革とその特色ある先進的な取り組み内容の成果は社会からも一定以上の評価を得ております。

ここに令和 5（2023）年度の教育の内部質保証の取り組み結果について、以下のとおり公表いたします。

## 1. 学習成果の可視化・体系化（教育の質向上に向けた取り組み）

### 1-1 卒業認定・学位授与の方針で掲げる学習成果の可視化・体系化の取り組み

令和 5（2023）年度第 1 回自己点検・評価委員会において、教育の内部質保証について「学習成果達成状況の言語化」、「学習成果達成の情報公表」などの達成目標を設定し、各学科においてその目標達成に向けて取り組みました。その結果、令和 4（2022）年度の時点では保育科のみが学生自身による「学習成果達成状況の言語化」に着手していましたが、令和 5（2023）年度は総合文化学科においても、自己評価結果と科目群 GPA の結果に基づいた学習成果を分析し言語化に取り組む体制が確認されました。さらに、保育科においては、従来の取り組みをさらに向上させ、学習成果の獲得状況を、数値による客観的指標と学生自身の振り返りの言葉での公表にも着手し「学習成果達成の情報公表」にも到達しています。これらの取り組みにより、学生の学習成果の獲得実感と成長実感、自己肯定感の向上に寄与していることは大きく評価できます。今後も各学科において各取り組みの成果の検証と、必要な改善を重ね、より完成されたシステムへ進化させるとともに、併設する大学を含めた他学科の好事例の共有や学科 FD 等を通じて、短期大学全体としてのレベルの向上に取り組めます。

### 1-2 ゼミナールと卒業研究の充実

短期大学での学びの集大成の場として、ゼミナールと卒業研究の充実に取り組みしました。保育科においては、「子育て支援」等について学生主体の研究活動を進め、12 月に活動成果発表の場として学生フォーラムを開催しました。総合文化学科においても、学生全員が卒業研究・制作に取り組み、発表会を行い、研究要旨・作品の写真を「九十九段」という冊子体に纏めました。このように短期大学でのゼミナールと卒業研究の活動も活発化してきています。今後もゼミナールと卒業研究の充実を図り、学生の高い専門性を養成してまいります。

## 2. 高い実就職率を達成したキャリア教育の成果

令和 5（2023）年度も、クラス担任やゼミ担当教員を中心に学科とキャリア支援課によ

る教職協働の連携強化に努めました。早期に学生への積極的な働きかけを行い就職意識の向上を図ることで、令和 5（2023）年度卒業生の実就職率は 94.6%となりました。昨年度の 95.2%とほぼ同等の成果を収めました。今後も各学科とキャリア支援課の連携により、学生が希望する進路を実現できるよう支援をしてまいります。

### 3. 日本一面倒見の良い短期大学を目指した学生指導

令和 5（2023）年度もクラス担任制をはじめとした少人数教育に取り組みました。クラス担任の他にも、ゼミ教員や、キャリア支援を担当する教職員など、一人の学生を複数の教職員で多方面から支援を行っています。令和 5（2023）年度の教員一人当たり学生数は 8.4 人で、同系統の他短期大学平均 12.5 人（私立学校振興・共済事業団「活性化分析資料」より）よりも低くなっており、数値にもきめ細やかな指導を行っていることが表れています。こうした学生指導の成果は、毎年実施し集計・公表している「在学生の意識調査」、「卒業生の意識調査」において、本学のおすすめ度の理由として「教員との距離が近い・熱心な教員が多い」と回答する学生が多いことから読み取れます。今後も教職員一同で学生一人ひとりを支援し、「日本一面倒見の良い短期大学」を目指してまいります。

### 4. 多岐にわたる社会貢献・地域連携の取り組み

令和 5（2023）年度も、各学科の特色や専門性を活かした社会貢献・地域貢献活動に取り組みました。

#### 4-1 「アートパーク 16」等（保育科）

保育科は、9 月 10 日（日）開催の「アートパーク 16～ニューワールド爆誕～」に松戸市内の保育園と連携し「もりのようふくやさん」をテーマに掲げ参加しました。地域の子供たちと衣装をつくり、ファッションショーを行い、好評を得ました。また、松戸市内の戸定歴史館と連携し、徳川幕府第 15 代将軍徳川慶喜の弟で、最後の水戸藩主であり、松戸に居を構えた徳川昭武を描いた絵本『とくがわあきたけ ーまつどにくらしたおとのさまー』を作成しました。この絵本は、市内の幼稚園・保育園・子育て支援センター等の保育施設、小学校、図書館等に配布されています。その制作過程において、戸定邸で 11 月に「戸定邸で遊ぼう！～こんにちは！あきたけさん～」を開催し、松戸市から市制 80 周年記念事業への協力として感謝状を授与されるなど、これらの活動は地域からも高く評価されています。

#### 4-2 ガレッド・デ・ロワコンテスト入賞等（総合文化学科）

総合文化学科は、第 21 回ガレッド・デ・ロワコンテストのエスポワール部門（学生および菓子愛好家部門）において学生 2 名が、2 位、3 位に入賞しました。短期大学の学生の入賞は初の快挙であり、社会的な評価の一例と言えます。また、地元岩瀬自治会のお祭りや文化祭等の行事に参加・協力しました。さらに、UR 都市機構との連携事業として、常盤平団地で古本まつりの開催し、来場者に学生が作成した「しおり・ブックカバー・折り紙」を配付し、子どもたちへの読み聞かせをしました。この他にも、地元松戸市の名産品を用いたレシピを開発してレストランに提供し、松戸市の魅力を広く発信することの一役買うなど、多様な地域・社会貢献に取り組みました。

#### 4-3 高校生の体験発表会

「高校生の体験発表会」を「ステージ発表型（21校23団体参加）」、「オンライン発表型（10校10団体）」の2つの形式で開催し、幅広い地域の高校生に対して、ボランティア等の地域貢献活動、授業・部活動等の教育活動等の多様な手法による発表の機会を提供しました。この取り組みにより、高校生同士の理解や啓発に寄与し、高校生自身の学びの更なる深化と一層の広がりにつながったと考えます。

今後も短期大学のもつ知的資源を活かした社会貢献・地域連携活動を推進し、地域とともに発展していくことを目指します。

#### 5. 「選ばれる短期大学」として定員充足への取り組み

急速な少子化の進行や、生成 AI の普及、国際情勢の不安定化など高等教育を取り巻く環境は近年大きく変化しています。その中でも短期大学を取り巻く環境は非常に厳しく、令和 5（2023）年度は今後の学生募集を停止する短期大学が相次ぎました。この厳しい状況は本学も例外ではありませんでした。今後も学習者目線での教育改善に取り組み、教育内容をさらに魅力的なものとして、その社会的浸透を図り、定員の充足に努めます。

退学者の抑制については各学科において、学科内での情報を共有し複数教員で対応にあたる仕組みの構築など、様々な取り組みが行われていますが、現時点では目に見える成果とはなっていません。今後も退学者の抑制に取り組むとともに、退学に至る要因の特定と対策を進めることが必要とされます。

#### 6. AI 時代における特色ある人間教育と本物教育

本学の高い教育力の礎となっているのが「聖徳教育」です。「聖徳教育」は、建学の精神である「和」の精神を理解するための人間教育です。小笠原流礼法基礎講座、聖徳教育Ⅰ（建学の精神「和」を理解し、教育の理念を深める）、Ⅱ（学外の研修）、Ⅲ（聖徳基礎力）から構成されています。

##### 6-1 小笠原流礼法基礎講座

本学の建学の精神である、「和」の精神の中心となる「礼」を学ぶ「礼法教育」は、聖徳の教育の柱の一つです。人と人とのコミュニケーションを円滑にする第一歩は「相手のことを大切にすること」であり、その「心」を形として表現したのが「礼法」です。礼法の源流である小笠原流礼法をとらえて、社会で活躍するにふさわしい人間としての「心」と「形」を丁寧に身に付けていきます。小笠原流礼法は卒業後のアンケートでも、「今の自分にどの程度活かされているか」という設問で、「活かされている」という回答が多く、本学を代表する教育の一つとして、高く評価されています。

##### 6-2 先進的キャリア教育「聖徳夢プロジェクト」

「聖徳夢プロジェクト」は、キャリア教育のプロジェクトとして、「夢プロジェクト（聖徳教育Ⅲ）」と、教育課程外の「夢実現プロジェクト」から構成されています。学生一人ひとりが夢をデザインし、実現できるようサポートする入学から卒業までシームレス教育プログラムです。「夢プロジェクト」でロジカルシンキングや情報リテラシーといった主に基礎学力の向上を図り、「夢実現プロジェクト」で教職員や企業の人事担当者が面接官となり全学生の模擬面接を実施する「面接チャレンジ会」や、有名企業のトップを招き成功事例や体験談を生々の声で直接聞く「THE TOP INTERVIEW」などを通じて就職活動

やその後の社会生活までを見据えたキャリア力を習得します。本学の圧倒的な実就職率を語る上で欠かせない重要な取り組みとなっており、高い成果を上げています。

#### まとめと今後の方向性

以上のとおり、本学の教育研究活動の点検・評価は有効に機能しており、改善が毎年進み、その成果も確実に現れてきています。本学は昨年度学園創立 90 周年を迎えました。令和 6（2024）年 1 月には、川並弘純理事長・学園長・学長より年頭所感で「"The SEITOKU"で 100 周年を目指す」という方針が示されました。これを踏まえ、本学は、今後も伝統を大切にしながら、教育研究活動においても変化を積極的に取り入れ、学習成果の可視化・体系化に努め、学習者目線での教育推進のため、自己点検・評価と改善の PDCA サイクルを回し、教育研究水準の更なる向上に取り組んでまいります。

以上